

令和7年第2回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和7年6月25日（水）

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

答弁者 知事、交通企画監

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
四 交通政策について （一）「いさりび鉄道」と道の果たすべき役割について 「道南いさりび鉄道」維持のため、道と沿線市町の負担の在り方等を話し合う協議会が開かれました。「いさりび鉄道」は、地域住民の足に加え、全道と全国を繋ぐ物流輸送の大動脈であり、なくてはならない路線としての役割はいささかも薄れていません。 知事は、「いさりび鉄道」が果たす役割と、道が果たすべき役割をどう認識しているのか、お聞きします。 （二）沿線市町との協議について 第1回の協議で道は考え方を表明せず、比較検討のためとして全国の並行在来線の負担割合などを示しました。それは、道と同等以上に負担しているのが肥薩おれんじ鉄道のみで、他は道より負担割合が低いという資料です。まるで道負担が殊更多いかのようにアピールし、道負担引き下げを主張しているかのように見えます。 沿線市町は道負担の引き下げに懸念を寄せており、我が会派は過日、「道南いさりび鉄道」本社、並びに函館市等と意見交換を行ってまいりました。道と沿線自治体の負担割合8：2からの協議を求める沿線市町の考え方を踏まえ、協議を進めるべきではありませんか。お聞きいたします。	【知事】 道南いさりび鉄道は、通勤・通学など地域住民の皆様の日常生活を支えており、沿線市町の公共交通として重要な役割を担っているほか、観光列車「ながまれ海峡号」の運行などで道南地域における観光振興に寄与するとともに、北海道と本州を結ぶ物流ルートの役割も果たしていると認識しております。 本年3月に成案となった第2次経営計画の策定にあたっては、厳しい収支予測が見込まれながらも、人材の確保・育成や施設・設備の老朽化などといった将来的な経営上の課題とその対応について関係者の皆様との協議を進めてきたところであり、道としては、引き続き、こうした協議の下に、沿線の2市1町と連携しながら、道南いさりび鉄道の持続的・安定的な運行に向けて対応してまいります。 【交通企画監】 現行の負担割合を合意した際、当時の並行在来線会社4社を参考とした経過があったことから、本年5月に開催された道南いさりび鉄道沿線地域協議会において、現在、開業している並行在来線8社に対する負担割合などを比較した資料を参考として示したところでございます。 協議会では、当面は、幹事会において実務的に進めていくことで合意をしており、道といたしましては、今後も、負担割合の見直しに関する沿線市町の考え方を踏まえながら、慎重かつ丁寧な協議に努めてまいります。